

平成22年3月期 第2四半期決算短信

平成21年11月10日

上場会社名 参天製薬株式会社

上場取引所 東大

コード番号 4536 URL <http://www.santen.co.jp>

代表者 (役職名) 代表取締役社長兼CEO (氏名) 黒川 明

問合せ先責任者 (役職名) 執行役員 管理本部長 (氏名) 原田 哲

四半期報告書提出予定日 平成21年11月10日

配当支払開始予定日

TEL 06-6321-7007

平成21年11月30日

(百万円未満切捨て)

1. 平成22年3月期第2四半期の連結業績(平成21年4月1日～平成21年9月30日)

(1) 連結経営成績(累計)

(%表示は対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
22年3月期第2四半期	59,123	13.2	19,036	237.8	18,875	213.8	11,670	213.4
21年3月期第2四半期	52,217	—	5,636	—	6,014	—	3,724	—

	1株当たり四半期純利益	潜在株式調整後1株当たり四半期純利益
	円 銭	円 銭
22年3月期第2四半期	137.23	137.05
21年3月期第2四半期	43.81	43.77

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率	1株当たり純資産
	百万円	百万円	%	円 銭
22年3月期第2四半期	164,520	135,393	82.1	1,588.68
21年3月期	151,012	125,368	82.9	1,472.32

(参考) 自己資本 22年3月期第2四半期 135,133百万円 21年3月期 125,180百万円

2. 配当の状況

	1株当たり配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
21年3月期	—	40.00	—	40.00	80.00
22年3月期	—	40.00	—	—	—
22年3月期 (予想)	—	—	—	40.00	80.00

(注) 配当予想の当四半期における修正の有無 無

3. 平成22年3月期の連結業績予想(平成21年4月1日～平成22年3月31日)

(%表示は対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		当期純利益		1株当たり当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	113,500	11.7	29,000	87.2	29,000	82.0	18,000	77.8	211.61

(注) 連結業績予想数値の当四半期における修正の有無 有

詳細は、6ページ「定性的情報・財務諸表等 3. 連結業績予想に関する定性的情報」をご覧ください。

4. その他

(1) 期中における重要な子会社の異動(連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動) 無

(2) 簡便な会計処理及び四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 無

(3) 四半期連結財務諸表作成に係る会計処理の原則・手続、表示方法等の変更(四半期連結財務諸表作成のための基本となる重要な事項等の変更に記載されるもの)

- ① 会計基準等の改正に伴う変更 無
- ② ①以外の変更 有

(注)詳細は、6ページ「定性的情報・財務諸表等 4. その他」をご覧ください。

(4) 発行済株式数(普通株式)

① 期末発行済株式数(自己株式を含む)	22年3月期第2四半期	86,956,203株	21年3月期	86,916,203株
② 期末自己株式数	22年3月期第2四半期	1,895,713株	21年3月期	1,893,769株
③ 期中平均株式数(四半期連結累計期間)	22年3月期第2四半期	85,048,039株	21年3月期第2四半期	85,004,971株

※業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報および合理的であると判断する一定の前提に基づいています。実際の業績は、事業環境変化、新薬の承認時期、為替レート変動、医薬品行政の動向など様々なリスク要因により大きく異なる可能性があります。

定性的情報・財務諸表等

1. 連結経営成績に関する定性的情報

① 当第2四半期までの業績の状況（平成21年4月1日～平成21年9月30日）

国内医療用眼科薬市場は、緑内障治療剤、角膜疾患治療剤および網膜疾患治療剤などの伸長により、前年同期と比べ拡大しました。一方、海外医療用眼科薬市場は、米国、欧州、アジアとも総じて堅調に推移しました。国内一般用眼科薬市場は、目のかすみ、爽快、コンタクト、アレルギーならびに抗菌用目薬などが伸長し前年同期と比べ増加しました。

このような状況下、当第2四半期までの業績は、次のとおりとなりました。

（単位：百万円）

	前第2四半期	当第2四半期	前年同期増減率
売上高	52,217	59,123	13.2%
営業利益	5,636	19,036	237.8%
経常利益	6,014	18,875	213.8%
四半期純利益	3,724	11,670	213.4%

② 当第2四半期までの売上の状況（平成21年4月1日～平成21年9月30日）

販売部門別の売上高は、次のとおりとなりました。

（単位：百万円）

	国内		海外		合計	
	金額	前年同期増減率	金額	前年同期増減率	金額	前年同期増減率
医療用医薬品	42,488	1.9%	7,242	5.0%	49,730	2.3%
うち眼科薬	37,294	1.9%	7,175	4.7%	44,470	2.3%
うち抗リウマチ薬	5,038	1.5%	58	173.4%	5,097	2.2%
うちその他医薬品	154	17.6%	8	△57.7%	162	7.8%
一般用医薬品	2,776	2.2%	16	205.2%	2,792	2.6%
医療機器	436	92.0%	-	-	436	92.0%
その他	278	14.9%	5,884	-	6,163	832.9%
合計	45,980	2.4%	13,142	79.6%	59,123	13.2%

[医療用医薬品]

当第2四半期までの医療用医薬品の売上高は、前年同期と比べ2.3%増加し497億3千万円となりました。

（眼科薬）

<国内>

医療施設ごとの潜在ニーズとその変化を的確に捉えた医薬情報提供などの普及促進活動を引き続き実施しました結果、国内医療用眼科薬の売上高は前年同期と比べ1.9%増加し372億9千4百万円となりました。

緑内障・高眼圧症の治療ニーズに合致した新製品「タプロス点眼液」は順調に市場浸透した結果、売上高は19億8千4百万円となりました。

角膜疾患治療剤領域では、ドライアイ（眼球乾燥症候群）などに伴う角結膜上皮障害の治療剤「ヒアレイン点眼液」が、患者さんのQOL（クオリティ・オブ・ライフ）を高める製品特性と、患者さんや医療現場におけるドライアイの疾患啓発活動などにより順調な伸びを示し、前年同期と比べ

1.9%増加し97億8千6百万円となりました。

合成抗菌点眼剤領域では、市場環境の変化などにより、「クラビット点眼液」、「タリビッド点眼液」両剤合わせた売上高は、前年同期と比べ8.4%減少し71億1千9百万円となりました。

抗アレルギー点眼剤領域では、引き続き医薬情報提供活動に注力しましたが、スギ花粉の飛散が前年と比べ早期に終息したことや競合の影響もあり、「リボスチン点眼液」の売上高は前年同期と比べ8.5%減少し12億7千2百万円となりました。

<海外>

海外における医療用眼科薬の売上高は、円換算ベースで前年同期と比べ4.7%増加し71億7千5百万円となりました。

欧州では、医薬情報提供などの普及促進活動に注力した結果、ドイツにおいて新製品の緑内障・高眼圧症治療薬「タフロタン」が順調に市場浸透しました。

アジアにおいても、普及促進活動の展開により当社製品の市場浸透が進みました。

(抗リウマチ薬)

抗リウマチ薬の売上高は、「リマチル錠」、「アザルフィジンEN錠」ならびに「メトレート錠2mg」が、主力の日本市場において、関節リウマチ治療ガイドラインで強く推奨される製剤に位置付けられていることもあり、前年同期と比べ2.2%増加し50億9千7百万円となりました。

[一般用医薬品]

一般用医薬品の売上高は、主力の日本市場において、目の疲れ・かすみ・爽快用の目薬の中で「サンテメディカル10」や新製品である「サンテ40i」および「サンテFX Vプラス」を中心に販売促進に注力した結果、前年同期と比べ2.6%増加し27億9千2百万円となりました。

[医療機器]

医療機器の売上高は、高屈折率の亚克力素材を光学部に用いたフォールダブル眼内レンズ「エタニティー」の普及促進活動に注力した結果、前年同期と比べ92.0%増加し4億3千6百万円となりました。

[その他]

ライセンス契約に基づく一時金収入などにより、61億6千3百万円となりました。

③ 当第2四半期までの利益の状況 (平成21年4月1日～平成21年9月30日)

売上原価は、177億6千8百万円となりました。

販売費及び一般管理費については、223億1千8百万円となり、このうち研究開発費は、69億2千2百万円となりました。

この結果、営業利益は、190億3千6百万円となりました。

経常利益は、188億7千5百万円となり、四半期純利益は、116億7千万円となりました。

④ 研究開発活動

参天製薬グループは、中長期的な成長の源泉として研究開発を重視しており、眼科薬を中心とした積極的な臨床開発活動を進めています。

緑内障・高眼圧症領域において、プロスタグランジン誘導体DE-085 (一般名：タフルプロスト) は、平成20年12月より日本で販売中です。欧州では、平成20年6月のドイツに始まり、現在、6カ国で自社販売しています。アジアにおいては、平成21年6月に韓国で販売承認を取得し、中国では、第Ⅲ相試験を実施中です。また、平成21年4月には、メルク社とのライセンス契約締結によ

り、西欧（ドイツを除く）、北米、南米、アフリカにおける販売権をメルク社に許諾し、平成21年9月よりイギリスおよびスペインで販売開始しています。米国での開発についてもメルク社が継続しています。緑内障および高眼圧症を適応症とするROCK阻害剤のDE-104（一般名：未定）は、米国および日本での前期第Ⅱ相試験の結果を踏まえ、より強い眼圧下降効果を目指して用量を増加した臨床試験（第Ⅰ相／前期第Ⅱ相試験）を米国にて追加実施中です。

角結膜疾患（ドライアイを含む）領域において、主にドライアイに伴う角結膜上皮障害治療剤のうち、DE-089（一般名：ジクアホソルナトリウム）は、平成20年5月に日本での製造販売承認を申請し、現在、承認審査期間中です。また、DE-101（一般名：リボグリタゾン）は、米国および日本での前期第Ⅱ相試験結果を踏まえ、日本で後期第Ⅱ相試験を開始しました。また、遷延性角膜上皮欠損を適応症とするDE-105（一般名：未定）は、米国において第Ⅰ相試験を終了し、日本で前期第Ⅱ相試験を開始しました。

網膜領域において、糖尿病黄斑浮腫を適応症とするDE-102（一般名：未定）は、患者さんを対象とした忍容性および有効性確認試験（第Ⅰ相／前期第Ⅱ相試験）を日本で実施中です。平成20年5月にマキュサイト社から日本を含むアジアでの眼科疾患を対象とした開発および販売実施権を取得したDE-109（一般名：シロリムス）は、滲出型加齢黄斑変性と糖尿病黄斑浮腫の患者さんを対象とした忍容性および有効性確認試験（第Ⅰ相／前期第Ⅱ相試験）を日本で実施中です。

外眼部感染症を適応症とするDE-108（一般名：レボフロキサシン（1.5%））は、日本において第Ⅲ相試験を実施中です。

また、当社が株式会社Argenesに国内開発権を許諾している、関節リウマチを適応症とするDE-098（一般名：未定）は、患者さんを対象とした忍容性および有効性確認試験（臨床第Ⅰ相／第Ⅱ相試験）を欧州と日本で実施中です。

2. 連結財政状態に関する定性的情報

当第2四半期末の資産は、前連結会計年度末に比べ135億8百万円増加し、1,645億2千万円となりました。現金及び預金の増加、投資有価証券の増加が主な要因です。

負債は、前連結会計年度末に比べ34億8千3百万円増加し、291億2千6百万円となりました。未払法人税の増加が主な要因です。

純資産は、前連結会計年度末に比べ100億2千5百万円増加し、1,353億9千3百万円となりました。利益剰余金の増加が主な要因です。

これらの結果、自己資本比率は前連結会計年度末に比べ0.8ポイント減少し、82.1%となりました。

キャッシュ・フローの状況につきましては、以下のとおりです。

当第2四半期末までの営業活動によるキャッシュ・フローは、160億1千3百万円の収入となりました。税金等調整前四半期純利益は186億6千8百万円であり、減価償却費が17億1千1百万円、法人税等の支払が41億2千5百万円あったことによります。

投資活動によるキャッシュ・フローは、12億5千2百万円の支出となりました。投資有価証券の取得による支出が10億3百万円あったことによります。

財務活動によるキャッシュ・フローは、31億2千2百万円の支出となりました。配当金の支払に34億円を支出したことによります。

以上の結果、現金及び現金同等物の当四半期末残高は、前連結会計年度末に比べ114億4千1百万円増加し、573億9千7百万円となりました。

3. 連結業績予想に関する定性的情報

平成21年8月4日に公表した平成22年3月期の業績予想と比較し、売上高は当第2四半期に計上されたライセンス契約に基づく一時金収入等により増加すると予想しています。利益についても、営業利益、経常利益および当期純利益とも増加すると見込んでいます。

なお、平成21年8月4日に公表しました通期の連結業績予想との差異は以下のとおりです。

	売上高	営業利益	経常利益	当期純利益	1株当たり 当期純利益
	百万円	百万円	百万円	百万円	円 銭
前回発表予想(A)	111,000	25,500	25,500	16,000	188 21
今回修正予想(B)	113,500	29,000	29,000	18,000	211 61
増減額(B-A)	2,500	3,500	3,500	2,000	23 40
増減率(%)	2.3%	13.7%	13.7%	12.5%	—
前期実績	101,618	15,494	15,935	10,123	119 08

4. その他

(1) 期中における重要な子会社の異動(連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動)
該当事項はありません。

(2) 簡便な会計処理及び四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用
該当事項はありません。

(3) 四半期連結財務諸表作成に係る会計処理の原則・手続、表示方法等の変更

前第2四半期連結累計期間において、営業外収益の「その他」に含めて表示していました「生命保険配当金」は、営業外収益総額の100分の20を超えたため、当第2四半期連結累計期間では区分掲記することとしました。なお、前第2四半期連結累計期間の営業外収益の「その他」に含まれる「生命保険配当金」は103百万円です。

5. 四半期連結財務諸表
 (1) 四半期連結貸借対照表

(単位：百万円)

	当第2四半期連結会計期間末 (平成21年9月30日)	前連結会計年度末に係る 要約連結貸借対照表 (平成21年3月31日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	49,351	37,117
受取手形及び売掛金	37,229	36,011
有価証券	10,498	11,396
商品及び製品	9,662	10,235
仕掛品	624	75
原材料及び貯蔵品	2,124	1,924
繰延税金資産	2,170	1,941
その他	2,351	2,352
貸倒引当金	△1	△1
流動資産合計	114,010	101,053
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物	41,719	41,475
減価償却累計額及び減損損失累計額	△26,288	△25,611
建物及び構築物(純額)	15,430	15,864
機械装置及び運搬具	11,211	11,065
減価償却累計額及び減損損失累計額	△8,976	△8,633
機械装置及び運搬具(純額)	2,234	2,432
土地	8,667	8,678
リース資産	64	53
減価償却累計額及び減損損失累計額	△15	△13
リース資産(純額)	48	39
建設仮勘定	101	99
その他	10,782	10,585
減価償却累計額及び減損損失累計額	△9,287	△9,034
その他(純額)	1,494	1,550
有形固定資産合計	27,976	28,664
無形固定資産		
ソフトウェア	1,197	1,355
その他	109	193
無形固定資産合計	1,307	1,549
投資その他の資産		
投資有価証券	13,926	11,818
繰延税金資産	5,907	6,409
その他	1,391	1,516
投資その他の資産合計	21,225	19,744
固定資産合計	50,509	49,959
資産合計	164,520	151,012

(単位：百万円)

	当第2四半期連結会計期間末 (平成21年9月30日)	前連結会計年度末に係る 要約連結貸借対照表 (平成21年3月31日)
負債の部		
流動負債		
支払手形及び買掛金	5,193	6,018
短期借入金	815	545
1年内返済予定の長期借入金	26	110
未払金	7,293	7,414
未払法人税等	7,413	4,163
賞与引当金	2,459	2,590
その他	2,122	1,597
流動負債合計	25,322	22,439
固定負債		
退職給付引当金	2,711	2,393
役員退職慰労引当金	448	505
その他	643	304
固定負債合計	3,803	3,203
負債合計	29,126	25,643
純資産の部		
株主資本		
資本金	6,502	6,457
資本剰余金	7,197	7,152
利益剰余金	129,403	121,133
自己株式	△4,940	△4,934
株主資本合計	138,163	129,808
評価・換算差額等		
その他有価証券評価差額金	744	△246
為替換算調整勘定	△3,774	△4,381
評価・換算差額等合計	△3,029	△4,628
新株予約権	260	188
純資産合計	135,393	125,368
負債純資産合計	164,520	151,012

(2) 四半期連結損益計算書
(第2四半期連結累計期間)

(単位：百万円)

	前第2四半期連結累計期間 (自 平成20年4月1日 至 平成20年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自 平成21年4月1日 至 平成21年9月30日)
売上高	52,217	59,123
売上原価	18,423	17,768
売上総利益	33,793	41,355
販売費及び一般管理費	28,157	22,318
営業利益	5,636	19,036
営業外収益		
受取利息	78	25
受取配当金	211	150
為替差益	128	—
生命保険配当金	—	128
その他	364	143
営業外収益合計	782	447
営業外費用		
支払利息	45	22
為替差損	—	317
持分法による投資損失	282	250
その他	75	19
営業外費用合計	403	609
経常利益	6,014	18,875
特別利益		
国庫補助金	18	—
特別利益合計	18	—
特別損失		
固定資産処分損	23	9
施設利用権評価損	15	—
投資有価証券売却損	—	197
特別損失合計	39	206
税金等調整前四半期純利益	5,994	18,668
法人税、住民税及び事業税	4,379	7,337
法人税等調整額	△2,109	△340
法人税等合計	2,270	6,997
四半期純利益	3,724	11,670

(3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書

(単位：百万円)

	前第2四半期連結累計期間 (自 平成20年4月1日 至 平成20年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自 平成21年4月1日 至 平成21年9月30日)
営業活動によるキャッシュ・フロー		
税金等調整前四半期純利益	5,994	18,668
減価償却費	2,248	1,711
退職給付引当金の増減額 (△は減少)	314	317
受取利息及び受取配当金	△289	△176
支払利息	45	22
持分法による投資損益 (△は益)	282	250
売上債権の増減額 (△は増加)	△1,110	△1,088
たな卸資産の増減額 (△は増加)	223	△71
仕入債務の増減額 (△は減少)	△467	△853
その他	2,085	1,198
小計	9,326	19,979
利息及び配当金の受取額	289	176
利息の支払額	△45	△17
法人税等の支払額	△4,276	△4,125
営業活動によるキャッシュ・フロー	5,294	16,013
投資活動によるキャッシュ・フロー		
定期預金の預入による支出	△2,824	△887
定期預金の払戻による収入	2,768	1,063
固定資産の取得による支出	△1,215	△541
投資有価証券の取得による支出	△854	△1,003
投資有価証券の売却による収入	—	115
貸付けによる支出	△300	△49
貸付金の回収による収入	311	49
その他	0	1
投資活動によるキャッシュ・フロー	△2,114	△1,252
財務活動によるキャッシュ・フロー		
短期借入れによる収入	—	280
長期借入金の返済による支出	△5,084	△84
配当金の支払額	△3,397	△3,400
その他	58	82
財務活動によるキャッシュ・フロー	△8,423	△3,122
現金及び現金同等物に係る換算差額	192	△197
現金及び現金同等物の増減額 (△は減少)	△5,051	11,441
現金及び現金同等物の期首残高	51,669	45,956
現金及び現金同等物の四半期末残高	46,618	57,397

(4) 継続企業の前提に関する注記

該当事項はありません。

(5) セグメント情報

[事業の種類別セグメント情報]

前第2四半期連結累計期間(自平成20年4月1日至平成20年9月30日)

全セグメントの売上高の合計、営業利益および全セグメントの資産の金額の合計額に占める「医薬品の製造・販売を中心とする医薬品事業」の割合がいずれも90%を超えているため、事業の種類別セグメント情報の記載を省略しています。

当第2四半期連結累計期間(自平成21年4月1日至平成21年9月30日)

全セグメントの売上高の合計、営業利益および全セグメントの資産の金額の合計額に占める「医薬品の製造・販売を中心とする医薬品事業」の割合がいずれも90%を超えているため、事業の種類別セグメント情報の記載を省略しています。

[所在地別セグメント情報]

前第2四半期連結累計期間(自平成20年4月1日至平成20年9月30日)

	日本 (百万円)	欧州 (百万円)	その他の地域 (百万円)	計 (百万円)	消去又は全社 (百万円)	連結 (百万円)
売上高及び営業損益						
売上高						
(1) 外部顧客に対する売上高	46,705	5,081	430	52,217	—	52,217
(2) セグメント間の 内部売上高又は振替高	1,218	976	1,610	3,805	(3,805)	—
計	47,923	6,057	2,041	56,022	(3,805)	52,217
営業利益 (又は営業損失(△))	6,896	112	△101	6,906	(1,270)	5,636

当第2四半期連結累計期間(自平成21年4月1日至平成21年9月30日)

	日本 (百万円)	欧州 (百万円)	その他の地域 (百万円)	計 (百万円)	消去又は全社 (百万円)	連結 (百万円)
売上高及び営業損益						
売上高						
(1) 外部顧客に対する売上高	52,853	4,657	1,612	59,123	—	59,123
(2) セグメント間の 内部売上高又は振替高	1,630	943	954	3,528	(3,528)	—
計	54,484	5,601	2,567	62,652	(3,528)	59,123
営業利益	19,448	389	195	20,033	(996)	19,036

(注) 1 国または地域の区分は、地理的近接度によっています。

2 本邦以外の区分に属する主な国または地域

(1) 欧州……………フィンランド、ドイツ、スウェーデン

(2) その他の地域……アメリカ、中国、韓国、台湾

〔海外売上高〕

前第2四半期連結累計期間（自 平成20年4月1日 至 平成20年9月30日）

	欧州	北米	アジア	その他の地域	計
I 海外売上高（百万円）	4,547	449	2,320	1	7,318
II 連結売上高（百万円）	—	—	—	—	52,217
III 連結売上高に占める海外売上高の割合（％）	8.7	0.9	4.4	0.0	14.0

当第2四半期連結累計期間（自 平成21年4月1日 至 平成21年9月30日）

	欧州	北米	アジア	その他の地域	計
I 海外売上高（百万円）	4,083	5,996	3,062	1	13,142
II 連結売上高（百万円）	—	—	—	—	59,123
III 連結売上高に占める海外売上高の割合（％）	6.9	10.1	5.2	0.0	22.2

(注) 1 国または地域の区分は、地理的近接度によっています。

2 各区分に属する主な国または地域

(1) 欧州……………フィンランド、ロシア、ドイツ、スウェーデン、ノルウェー

(2) 北米……………アメリカ

(3) アジア……………中国、韓国、ベトナム、台湾

3 海外売上高は、当社および連結子会社の本邦以外の国または地域における売上高です。

(6) 株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記

該当事項はありません。